



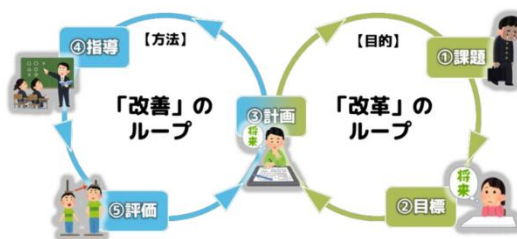
「カリキュラム・マネジメント」って.....そもそも...なに? 教育活動や教育課程の...なにを...どうするの...なんのために? 教えて! 赤沢早人先生~! そこで赤沢先生、奈良から Zoom にご登場!



8月21日開催の「第2回研修会」は、県域巡回講座として「下関市教育センター」での開催予定でした。下関市教育委員会さんの温かいご理解ご支援を頂き、下関市内の学校に広報や参加推奨もして下さり、実際に参加して下さいました先生方もいらして。だから「下関」でやってあげたかった! 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、涙、涙で「オンライン研修」に切り替えましたが、下関の先生方を含む現職教員(行政職含む)35人、ストマス院生7人、講師・大学関係者12人の計54人が集い、4時間に及ぶCohort研修を行いました。中身濃かった! 研修会の様子を報告します。

講義演習「カリキュラム・マネジメントによる協働的学校改善」 奈良教育大学次世代教員養成センター 教授 赤沢早人 さん

さすが「カリ・マネ」の第一人者。文科省や「中央研」の委員、講師としてご活躍の傍ら、学校や行政ともしっかりつながってお仕事をなさっている赤沢先生。「カリ・マネ」の解釈、目的・目標からマネジメントの具体まで、確かな理論と優しい語り口、分かりやすい展開に、ぐっと引き込まれた2時間でした。貴重な資料もたくさん頂いて。赤沢先生、ありがとうございました。



	(説明)	管理職・ベテラン	主任・主事、MFルーター	教科・学級等担任
Management of Curriculum	教育活動を行う PDCA、授業改善、アクティブ・ラーニング、ICT活用、教科等横断	準備付ける	選択する 決定する	準備する 指導する
Management through Curriculum	子どもにつけたい力を 具体化する 資質・能力、子ども理解、ルブリック、学習評価	依頼する 外部に説明する	つなく	子どもを 変える
Management for Curriculum	教職員等力を合わせる 条件を整える 校内研修・研究、チーム学校、 社会に開かれた教育課程	組織を つくる	文化を つくる	仲間を つくる

受講者のコメントから

各学校で教育の目的を共有することの大切さを改めて学んだ。特に印象に残っているのが、「実際の子どもたちの姿から課題を共有し、腹を割っていかに話せるか」が学校改善において重要ということ。絞りこむためには、教員間で話し合う必要がある。話し合いを通し目標を絞り込むことで具体的な子どもたちの姿を共有することができ、改善の方向性も共有できる。そのことで、「改革」のループと「改善」のループが上手くまわっていくことも理解ができた。今後は、みんなで共有して実践できる組織づくりも、カリキュラム・マネジメントにおいては特に重要になってくると感じた。(小学校)

目標の具体化と共通理解、シングルループとダブルループの交わりなど学ぶことが多かった。特に「すごろく」にあったような、4月の子ども姿、3月の姿を認識し、途中の道のりを具体的に描き、教職員でともに歩んでいけるか、その歩みの評価を共有できるかで学校が前進する度合いが大きく変わるのだろう。「すごろく」の途中に「ストップ」が設定 = 方向性の確認や成果の検証が設定してあり、みんなで道のりを眺め確認する場があり軌道修正も可能だと思った。

現任校では、まず4月の現状確認や目指す姿の設定や共通理解の段階がなく、それぞれ違う目標で動くので「個人商店化」してしまうのだと思った。生徒の成長(課題の解決)に向けてどういうプロジェクトができるか(どういうカリキュラムを組むことができるか)、そしてそれに向けてプロジェクトチームが立ち上がるなりしてチームで取り組んでいける組織文化が大切だと思った。

生徒には探究的な学習が必要ですが、教員集団の「探究的な学習」がカリマネだと思う。きっとカリマネ的発想が頭の中にちゃんとあり、1年後の姿や3年後(卒業時)の姿を描き、「仮説」として●●したら××になるのではなかろうかという発想でカリキュラムを組み立て、必要に応じて情報収集して実施・検証・探究のループを回せたら生徒が育つし、学校が前進すると考えることができた。探究的な学習や課題研究がうまく指導できる教員はきっとカリマネも上手だし、その逆もまたしかりなのではないか。これまで理解が曖昧だった部分についても整理し、理解を深めることができた。(高校)

